

工大広報

No.256
Winter 2010
2010年1月20日発行
(年4回発行)

卒業研修に取組む学生たち、 研究に取組む院生たち

国際交流シリーズ②

国連大学グローバル・セミナー 第8回東北セッション
「貧困と格差～グローカルな視点から～」に参加して



未来への大きなステップ

おおつか
大槻 くるみ(経営コミュニケーション学科 2年)



貧困と格差

サジャ・マニッシュ・カルティク
(知能エレクトロニクス学科 3年)

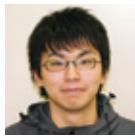


表紙写真: 知能エレクトロニクス学科 阿部俊三研究室 4年生(走査型電子顕微鏡を操作中)



創造から統合へ 仙台からの発進
東北工業大学

工学部 | 電子工学科



荒井 智彬

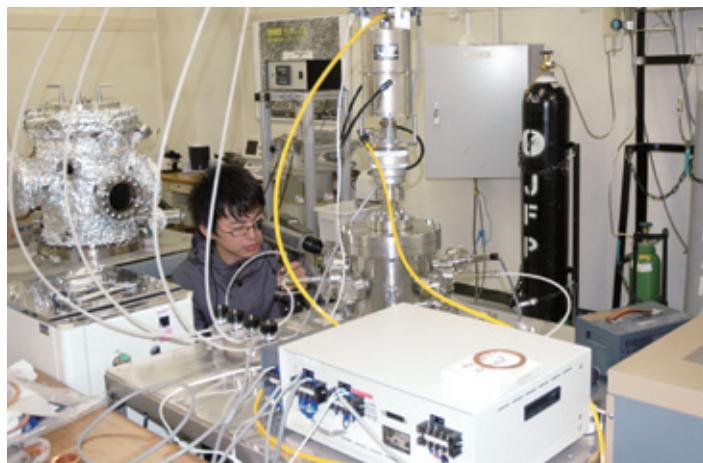
電子工学科 4年

私が所属する阿部俊三研究室では、四角い断面を持つナノチューブ（以下角型ナノチューブ）と不活性ガスカーテン燃焼炎法を用いたダイヤモンド薄膜の成長実験を行なっています。

最近、新しい方法によるダイヤモンド薄膜と角型ナノチューブの成長に成功し、12月4日（金）に日本大学工学部で行なわれた応用物理学会東北支部大会で発表しました。

現在、脱燃焼炎法を目指した角型ナノチューブ成長装置（写真）の立ち上げを行なっています。残り少ない研修生活を、新しいCVD（気相成長）装置開発に向け邁進したいと思っています。

新電子デバイス材料をめざして



卒業研修に取組む学生たち、研究

工学部 | 建築学科



長谷部 友香

建築学科 4年

私が所属する石井敏研究室では、研究と設計の2つの分野に分かれて活動しています。

研究では、高齢者の施設や住宅の環境の質を高めるための調査研究が行なわれています。全国規模の調査から地域に根ざした調査まで幅広いテーマが扱われています。

設計は各自でテーマを設定・計画します。その中で私は、日本特有の閉じた結婚式場を都市を開き、溶け込ませることで生まれるアクティビティについて考えています。答えのないものを探りつづけることに困惑し、自問自答の毎日ですが、それがカタチを持ちはじめ、新たな空間を思い描くと心が躍ります。和気あいあいとした研究室で、研究・設計の垣根なく意見交換しながら楽しく卒業研修に取り組んでいます。

魅力的な空間の創造を目指して



工学部 | デザイン工学科



中沢 希美

デザイン工学科 4年

私の所属している中居尚彦研究室ではFlashアニメーションやWebデザインなどについて研究をしています。私はFlashソフトを使用した架空のインテリアショップのWebデザインと商品の家具を3D仮想空間の部屋に配置してシミュレーションするプログラムを研究しています。主にパソコン上で制作するので地味な作業かもしれませんのが、実際に制作しながらWebの作り方やプログラムについて学ぶことができるので、とても勉強になります。私は、こういうものがあったらいいのに、というちょっとした気持ちからこのテーマを研修テーマにしました。物をデザインする上で、自分がどう思ったか感じたか、何かしらのきっかけは必要だと思います。

インテリア
配置シミュレーションの研究



卒業研修発表会 ●会場:八木山キャンパス／長町キャンパス

デザイン工学科 ————— 2月10日(水)～17日(水)

建築学科 ————— 2月15日(月)・16日(火)

環境情報工学科 ————— 2月17日(水)

建設システム工学科 ————— 2月18日(木)

情報通信工学科 ————— 2月25日(木)

電子工学科 ————— 3月1日(月)・4日(木)

大学院 | 通信工学専攻

低コストでコンピュータネットワークを利用できる組込みネットワーク機器は、インターネットを介して遠隔操作などを行なえることから、様々な電化製品に実装されつつあります。しかし、特に低コストな機器では処理能力が低く、サイバーテロからの攻撃に対して弱いという側面を持っています。そこで私は、「組込みネットワーク機器における障害対策を実装したプロトコルスタックの開発」というテーマで研究を行なっています。これは、機器上のソフト面での工夫により低コストで攻撃に対して頑強な対策の実現を目指すものです。安全で便利なネットワークシステムの構築に貢献できるように日々研究しています。



はらた ながとも
原田 長具
通信工学専攻
情報処理工学部門
博士(前期)課程 2年

サイバーテロに負けない 頑強な通信の実現



に取組む院生たち

今春卒業する学生と院生が、これまでに取組んできた実験・調査分析などをまとめた論文、設計などの制作の様子を紹介します。

大学院 | 土木工学専攻

現在、大都市の中心市街地は、発展を続けています。その一方で、地方都市では、来街者の減少により、中心市街地のシャッタータウン化や、空洞化などの問題が発生しています。この問題を解決するためには、従来の道路や構造物の建設といった対策だけではなく、人々のニーズへの対応などの心理面を考慮する必要性があると考えます。そこで私は、中心市街地への訪問者が魅力的と感じていることをアンケートなどによって調査し、その魅力が中心市街地において、どのような役割を果たしているかを分析するという研究を行なっています。最終的には、この研究を通して、中心市街地を訪れる人々が満足できるような、まちづくりを行ないたいと考えています。



よこやま たけひこ
横山 雄彦
土木工学専攻
社会基盤計画学部門
博士(前期)課程 2年

中心市街地の 魅力要因に関する研究



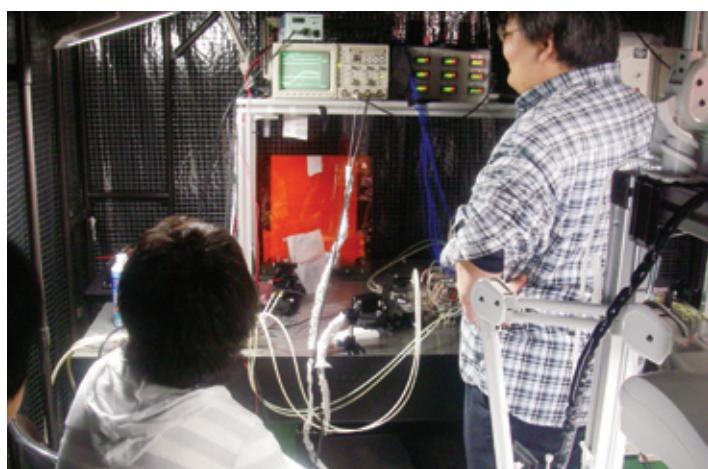
大学院 | 環境情報工学専攻

現在、地球温暖化問題が深刻化していますが、その原因物質は二酸化炭素だといわれています。この二酸化炭素を吸収・固定しているのが植物です。植物だけが唯一、植林など人の手によって大気中の二酸化炭素濃度を減少させられるため、京都議定書に吸収源活動が導入されたことも含め、今後より正確な植生分布観測が必要になります。私は、この植生分布を遠方から高精度に観測するための、レーザーの研究をしています。最終的には、衛星に搭載するレーザーを用いたレーダー(ライダー)への応用の実現を目指しています。この研究が地球温暖化問題解決への手助けとなるよう、日々研究を進めています。



てらさき ともひろ
寺崎 知広
環境情報工学専攻
環境情報計測工学部門
博士(前期)課程 2年

レーザー光で植物を見る



卒業研修 学外発表

環境情報工学科—— 2月19日(金)~24日(水)
東北工業大学一番町ロビー1階

建築学科・デザイン工学科—— 2月26日(金)~3月3日(水)
せんだいメディアテーク5階

大学院・専攻発表会 ●会場:八木山キャンパス／長町キャンパス

建築学専攻／土木工学専攻	2月17日(水)
通信工学専攻	2月18日(木)
電子工学専攻／デザイン工学専攻	2月19日(金)
環境情報工学専攻	2月26日(金)

海外での研究発表



喜怒哀楽の初座長



こんどう ゆういちろう
近藤 祐一郎
環境情報工学科 准教授

デザインに関する国際会議“IASDR2009”が10月18日(日)から5日間、韓国のソウルで開催されました。私の主目的は研究発表なのですが、今回は初めての座長についてご報告したいと思います。

座長とは発表会場の司会進行役のことです。今まで国内学会では何度かありますが、今回は外国人相手に英語での進行になります。更に発表者のリストには英国人や米国人がいてますます哀しくなります。

当日、会場では5組の発表予定でしたが、2組のキャンセルがありました。担当時間が減ったので喜ぶやいなや、3組目の発表後会場から「全員で質疑応答をしよう」との声[余計なことをー!(怒)]。そして拍手がわき起こり、発表者が前に集まり、椅子が並べられ、場が整ったとともに私に注目が集まります。

[ま、まずい(汗)]。…とは言え、何かを言わなければ始まりません。そこから先、何を言ったのか、どのように進行したのか全く記憶にありません。しかし、定刻になり拍手とともに閉会に至ったことを思い出せば、どうやら無事に終了したようです。こんな意外性があるのも国際性なのでしょうか。終わってみれば楽しかった(?)初座長でした。

INTERNATIONAL ASSOCIATION OF SOCIETIES OF DESIGN RESEARCH 2009
day2 Oct.19, Monday 09:00-10:40
307B Design Education1 : Distance Learning

Sessions Chair: Yuichiro Kondo
National Taipei University of Technology / Japan

Towards an online design studio: A study of social networking in design distance learning
Nicole Schaeferz / The Open University / UK
Theodore Zamenopoulos / The Open University / UK

Competency Monitoring in Design Education; On the dev framework and a web-based tool for the monitoring of de
Noert Roodenburg / Delft University of Technology / The Netherlands
Jelle Zijlstra / Delft University of Technology / The Netherlands

Environmental Impact on Design Education
Grace Lau KJ SCOPE, City University of Hong Kong / Hong Kong

Design Management in the Design High School

Information Boardに映された会場情報。所属に“National Taipei”的文字がついているあたり、国際会議ならではのミステイクか(笑)。



国際会議への参加



ふじた とよみ
藤田 豊己
知能エレクトロニクス学科 准教授

11月3日(火)から5日(木)に米国コロラド州デンバーで行なわれた IEEE International Workshop on Safety, Security, and Rescue Robotics (SSRR 2009)に参加しました。この会議ではレスキュー・ロボットや安全技術に関する専門家が世界中から集い、様々な課題についての研究講演と活発な議論が行なわれました。私もレーザレンジセンサによるセンシングについての研究発表を行ないました。

国際会議では、講演会のみならず、懇親会やデモ、観光ツアーなども企画されます。私は今回デモツアーに参加しました。デンバー市郊外の広大な専用敷地でレスキュー・ロボットのデモが行なわれたのですが、実際に車を爆破してその現場を再現したのにはさすがに驚きました。いかにもアメリカ…という感じでした。

研究成果を発表することはとても重要なことで、国内での機会も多数ありますが、より多くの研究者から評価を受けるには国際会議で発表することが必要です。最先端の研究に触れることや、世界中の研究者と情報交換できることも国際会議の大きなメリットです。研究に限らず、現在では様々な分野で国際化が進んでおり、世界中の人々と積極的に交流していくことはとても大切です。



1. 発表の様子



2. デモのために爆破した自動車



3. 災害現場の車(右上赤丸内)に向かうレスキュー・ロボット

国連大学グローバル・セミナー 第8回東北セッション 「貧困と格差～グローカルな視点から～」に参加して

※グローカル：グローバルとローカルを組み合わせた言葉



セミナーに参加して



宮曾根 美香
経営コミュニケーション学科 教授
国際交流委員会副委員長

11月21日(土)から23日(月)の3日間、国連大学グローバル・セミナー第8回東北セッションが宮城県で開催されました。国内外から86名の学生が、本学からは6名の学生が参加しました。テーマは「貧困と格差～グローカルな視点から～」で、貧困の深刻化や格差社会の顕在化など、喫緊の課題についてグローバルかつローカルな視点での解決策を探るのが目的でした。セミナーは合宿形式で、基調講演・特別講演、複数の講義の後、グループに分かれて独自のテーマで討議を重ね、プレゼンテーションを行ないました。そこでは、「精神的貧困」の軽減、「仮想水」の使用、ものづくりといった経済活動と結びついた教育を提供するなど、オリジナルな視点での提案が見られました。

未来への大きなステップ



大槻 くるみ
経営コミュニケーション学科 2年

まさに将来、私が仕事としても向き合っていきたい主題であることから参加を決めましたが、本当に内容の濃い3日間になりました。留学生に通訳をしながら講義を聴くことは大変でしたが、集中して聴いて伝えようという意識を持って取り組めたことは実に実りあるものでした。グループ討論はかなり白熱したものとなり、充実したプレゼンテーションを最後に皆で作り上げることができました。

これに参加して、もっと貧困や環境の問題、語学を勉強しないといけないし、もっともっと勉強したいと思いました。大学時代を有意義に使って学びながら、自分がこうした問題の解決にどのように貢献していくのかをじっくり考えていきたいと改めて感じました。

貧困と格差



サジヤ・マニーシュ・カルティク
知能エレクトロニクス学科 3年

11月21日(土)から23日(月)の3日間、国連大学グローバルセミナー第8回東北セッションに参加しました。全国から集まった参加者は日本語5グループと英語4グループに分けられました。

最後の日に各グループで討論を重ね、プレゼンテーションを行ないました。私のグループは、7つの国からの学生たちが集まつたので、テーマを決めるのが大変でしたが「OUR POVERTY NOW&FUTURE」というテーマでプレゼンテーションを行ないました。

このセミナーを通して、現実を知ることと、主張することの重要性を学びました。このような貴重な経験ができる本当に良かったと思います。機会を与えていただきありがとうございました。

本学からは国際交流委員会が審査した結果、選考された6名の学生が参加しました。

サジヤ・マニーシュ・カルティク(知能エレクトロニクス学科 3年)／渡部 修也(環境情報工学科 4年)
後藤 あかり(クリエイティブデザイン学科2年)／大槻 くるみ(経営コミュニケーション学科 2年)
高屋 彩香(経営コミュニケーション学科2年)／宮本 夕貴(経営コミュニケーション学科2年)

产学連携研究の益々の発展に向けて

新技術創造研究センターは、地域社会への貢献を狙いとして一番町ロビーにおける“Tohtechサロン”の開催や各種展示会への研究成果の出展等の情報発信の他、教員の研究シーズをもとに産業界、自治体などとのプロジェクト研究を推進してきました。これらの産学連携活動は地域社会に定着しつつあり、益々の発展に向けて組織的活動を推進しています。

イノベーションジャパン
2009に出展して

「産学官連携フェア
2009みやぎ」に参加して

『価値あるモノ創りを目指して』
～Tohtechサロンから大崎～



上杉 直
うえすぎ なおし
新技術創造研究センター長
情報通信工学科 学科長・教授



高野 剛浩
たかの たけひろ
情報通信工学科 教授

産学連携に関する最大規模の展示会である“イノベーションジャパン2009”が東京国際フォーラム（東京、有楽町）で9月16日（水）から9月18日（金）に開催されました。全国151の大学・高専から幅広い分野で352件の研究成果が発表され、参加者は41,000人でした。我々の研究成果“近赤外領域超広帯域パルス光源の開発”にも100人以上の方々が関心を寄せました。学術講演会とは異なり、企業の製品開発や製造管理部門の技術者が多く、具体的な応用に向けた有益な情報交換を行なうことができました。

次年度以降も、産学連携活動の活性化に向け継続的に本学の成果を出展していくことが重要であると感じました。

10月14日(水)仙台国際センターで開催された「産学官連携フェア2009みやぎ」は宮城県内外の機関が一同に会し、研究・技術開発成果や産学官連携事業の取り組み等について紹介するイベントです。今年度は東北地方の主な大学・高専から50件以上、本学からも5件の展示をしました。高野研究室では「圧電アクチュエータ・超音波モータ」をタイトルとして、実用化を目指している超音波モータを紹介し、試作品を展示しました。特に特殊環境下での使用を可能にする超音波モータは、従来にない構成として多くの方々に興味を持っていただきました。ブースを訪れる人は専門分野の人が多いので、説明にあたった研修生は四苦八苦をしていたようですが、得難い経験となりました。

10月23日(金)「価値あるモノ創りを目指して」と題して、Tohtechサロンを今回は一番町ロビーから大崎市内（グランド平成）に移し開催しました。当日は、開場と同時に定員（100名）が満席となり、大崎地域企業の産学連携に対する期待と熱い想いを感じました。サロンは、先ず「酸化第一銅太陽電池の開発」、「圧電アクチュエータの開発」など本学の最先端研究を紹介、続いて「ホンダ流モノ創りのDNA」と題し本田技研元常務、渡辺洋男氏より、本田宗一郎がホンダに残したモノ創り哲学について講演をいただきました。講演終了後の懇親会は、浅井和弘副センター長（環境情報工学科教授）の挨拶に始まり和やかな雰囲気の中、企業の方々との交流を図ることができました。



「西多賀寿大学」長町キャンパス見学会 安全安心生活デザイン学科主催シンポジウム 「生活環境上の安全・安心を考える」開催

爽やかな秋晴れに恵まれた10月21日(水)、「西多賀寿大学」(仙台市西多賀市民センター講座)の長町キャンパス見学会が行なわれました。西多賀寿大学の57名の方々が講義の受講や施設見学、さらに学生との交流を目的に訪れました。志田正男ライフデザイン学部長の挨拶と学部紹介、高橋正行事務長のキャンパス概要説明、諏訪雅貴講師と伊藤の講義「高齢者の健康的な生活」の後、クリエイティブデザイン学科と安全安心生活デザイン学科の教員と学生の引率でキャンパス見学が行なわれました。見学後の昼食時間には学食も体験され、後日感謝のお手紙をいただきました。

また、11月6日(金)には、安全安心生活デザイン学科主催シンポジウム「生活環境上の安全・安心を考える」が開催され、教職員や学生、地域住民ら約60名の参加がありました。北條祥子教授(尚絅学院大学)基調講演では、子どもが環境汚染を受けやすいことを指摘し、環境問題を社会全体の問題として取り組むべきであると述べました。パネル討議「安全安心生活デザイン学科の教育研究内容をめぐって」では、心身・住まい・地域の各コースの教員が教育課程や研究内容を説明し、意見交換がなされました。



第4回秋の八木山フェスタ

11月1日(日)と3日(祝)の2日間、仙台市八木山動物公園・八木山ベニーランド・本学共催の「第4回秋の八木山フェスタ※」が開催されました。今年は2日間の開催で、本学会場では映画研究会の上映会、JAZZ研究会の演奏会、ダンス愛好会のダンスや建築学科カラーズ「おかしのいえ」など学生をメインとした企画を用意しました。動物公園・ベニーランド・本学を結ぶスタンプラリーもあり、来場者が各会場の催しを楽しみ、地域の方々との交流が深りました。

※八木山フェスタは「こどもにやさしい八木山」「地域との交流」「公営と民間のコラボレーション」をテーマとしたイベントです。



地域幼稚園との交流

本学近くの向山幼稚園の園児たちが長町キャンパス構内通行のお礼として、6月は「花の日礼拝」の花束を、10月は園児たちが収穫した「収穫祭」の野菜や果物を長町キャンパスに届けてくれました。子どもたちの歌声と笑顔に、学生や教職員も思わず笑顔がこぼれていました。

第5回教育改善シンポジウム 「学ぶ意欲をどう高めるか」開催

9月4日(金)、第5回教育改善シンポジウムが本学FD委員会と教務部の共催で行なわれました。

「学ぶ意欲をどう高めるか」をテーマに4名の教員が話題提供し、本学教員及び東北工業大学高等学校教員が、学生の学ぶ意欲を高めるために何をすればいいのか具体的なアイデアや問題点について、率直な意見を交わしました。話題提供者4名は下記の通りです。

「学生との向き合い方」—— 片山 文雄 准教授(共通教育センター教職課程部／FD委員会幹事)

「目的意識の涵養」—— 阿部 敏哉 教授 (経営コミュニケーション学科／FD委員会幹事)

「教材の提供の仕方」—— 小浜 晓子 准教授(環境情報工学科／FD委員会幹事)

「成績評価の仕方」—— 青木 俊明 准教授(経営コミュニケーション学科／教務部次長)



教務部からのコメント

GPA導入の課題



青木 俊明

教務部次長

経営コミュニケーション学科 准教授

現在、大学が学士力の担保にむけて取り組むべき課題として挙げられているGPA(Grade Point Average)の導入についてご紹介いたしました。

GPAを導入した場合、成績上位者と下位者の差がより明確になるために、学生にはより勉強することが求められ、教員にはより多くの教育指導を行なうことが求められるようになります。本学では、この傾向が強く現れることが予想されるため、教育中心の大学となる覚悟が求められる旨をお話ししました。併せて、落伍者の増加も予想されるため、その対策例についてもご紹介いたしました。もはやGPA導入は避けることはできず、どのように導入するかが重要な論点になっていることをお話ししました。

現場で教えている教員からのコメント

日々の試行錯誤体験を共有して



小浜 晓子

FD委員会幹事

環境情報工学科 准教授

多くの教職員が、よりよい講義、学生指導を行なうべく、日々悩みさまざまな試行錯誤を重ねています。しかし、これらのことを大学全体で話す機会は多くありません。本シンポジウムでは、話題提供者自身が常々考え、取り組んでいることをもとにお話しさせていただきました。

それぞれの話題に対し、フロアから同様または異なる意見、経験談(成功例、失敗例)などをたくさんいただき、話題提供者としてもなるほどと思う点が多く大変有意義でした。参加者が自身や他の教員の現状を改めて認識し、改善策を模索するよい機会になったのではないかと思います。

今後はより多くの教職員、学生に参加を呼び掛け、大学全体としての「教え、学ぶ意欲」のさらなる高まりを期待したいと考えています。

特色教育の試み① 各学科で行なっている特色のある教育の一部を2回に分けて紹介します。

建築学科

マイスター認定による
メンターの活用を！



やつ けんじ
谷津 憲司
建築学科 学科長・教授

マイスター(Meister)は、ドイツ語で「職人・達人・名人」などの意味を持つ言葉です。建築学科では、今年から建築の専門科目を4つの分野に分け、それぞれ成績上位5名程度をMeisterとして認定しています。Meisterの役割は、メンター(Mentor: 良き助言者)として週1~2回、建築学科サポートセンターに待機し、後輩等に学習の助言をすることです。教えることは、最良の学習方法もあります。Meisterはこの経験を自らの知識を深める機会として捉え、教員も専門性の高い助言をすることで、Meisterをサポートしています。建築学科では、学生の特性に合わせた学習環境を、さまざまな人のネットワークによって構築しようとしています。

知能エレクトロニクス学科

ハードとソフトウェアを
学ぶ実践教育



むらこそ かつお
村社 勝夫
知能エレクトロニクス学科 准教授

知能エレクトロニクス学科は、よく「人型ロボットを扱うのですか」と聞かれます。しかし、必ずしも人間の形をしたものばかりではなく、コンピュータを搭載し制御回路をもつ装置も知能エレクトロニクスの範疇です。携帯電話、デジタル家電、自動車、医療機器など、その中身は知能システム、知能センシング、知能デバイスの技術が融合されたものです。このような組込み型のマイコンシステムを2年、3年の学生実験に取り入れ、LED点灯、モータ制御、模型自動車のライン走行といったハードとソフトウェアを学ぶ実践的教育を行なっています。

環境情報工学科

新しくスタートした
光、風、音に関する環境工学実験



あさい かずひろ
浅井 和弘
環境情報工学科 教授

本学科に入学してくる学生に「とくに勉強したいことは?」と尋ねると、多くの学生は「太陽光発電、風力発電などCO₂を出さないクリーンなエネルギー源についてしっかり学び、地球温暖化問題の解決に役立つ技術者になりたい」と抱負を語ってくれます。そこで、今年度から学生教育充実の一環として、“クリーンエネルギー技術の教育”を目的とした①太陽光発電、②風力発電、これらに加えて③音環境の3テーマからなる「環境工学実験I」を2年生後期にスタートさせました。実験に取り組む学生たちの真剣な横顔は、まさに環境問題解決に立ち向かう技術者の卵の顔で頗もしく感じられます。

安全安心生活デザイン学科

少人数制セミナー
「生活デザインセミナーI・II」



いとう みゆき
伊藤 美由紀
安全安心生活デザイン学科 講師

安全安心生活デザイン学科1年生の「生活デザインセミナーI・II」は、1グループ7~8名に分かれ、各担当教員の専門に応じて安全で安心な生活デザインの入門的な課題を学習します。5月からグループごとにテーマを決定し企画・調査を行ない、調査した結果や考察をまとめました。10~11月の全体発表会では、「バリアフリー」、「障害者スポーツ」、「長町キャンパスにおける樹木(緑の楽校)・建物・ウォーキングコース」、「学生が住む家や地域」、「現代的、歴史的建築物」など様々なテーマがありました。学生たちは発表や討議からグループを超えて学びを共有しました。

就職状況と3年生へのアドバイス

2010年の新年を迎えたが、2009年度の直近の就職内定率は芳しくありません。建築学科と建設システム工学科は例年並みですが、他の4学科は苦戦を強いられています。4年生自身も含めて卒業式までに全員が進路を決定できるように全学を挙げて努力しています。3年生諸君は、就職は未だ先のことと考えず、今にでも就職試験を受けるつもりで備えてください。まずは「自己分析」から始めてください。以下に各学科就職担当教員からのアドバイスを載せてもらいました。

古賀 秀昭 就職部長／環境情報工学科 教授

知能エレクトロニクス学科

早めに活動体制を



大羽 克彦
知能エレクトロニクス学科 教授

今年度は恐れていた就職氷河期が到来し、学科の就職内定率は昨年と比較して、20ポイント程下がり、危機的な状況に陥っています。特に、製造業とIT関連企業への内定者が激減したことが原因と考えられます。現在、学科はもちろんのこと、全学を挙げて就職活動の支援を強化しているところです。

一方、現3年生にとっても、この状況が急速に改善されるとは思われませんので、これまで以上に真剣になおかつ早めに就職活動に取り組む必要があるでしょう。例年、4～6月が企業の採用活動のピークを迎えていますが、この時期を逃すことがないように、きちんとした受験体制を整えて置くことが肝要です。

情報通信工学科

より積極的に情報の収集と活動を



高野 剛浩
情報通信工学科 教授

情報通信工学科の今年度の就職内定状況は、昨年同期と比較して大幅に低下し、大変厳しい状況に直面しています。昨秋から会社の求人活動に陰りが見えたので、3年生の時点からガイダンスや種々の対策を講じてきたのですが、予想を上回る厳しい就職状況になっています。9月以降ガイダンスや個人面接などを実施し、希望職種や業種の変更等を含めて、よりきめ細かな指導、助言を行なっているところです。

一方、3年生に対してもさまざまな就職支援プログラムがスタートしました。来年度の就職活動も厳しい状況が続くと予想されますので、学科としても就職支援体制を強化し、学生の活動をサポートしていく予定です。

建築学科

目標を定め、早めの準備を



沼野 夏生
建築学科 教授

建築学科の就職内定状況は、5月頃までは比較的順調に推移していましたが、その後伸び悩んでいます。求人会社数、求人数とも大幅にダウンし、合格率も昨年に比べ約4ポイント低下しました。次年度はさらに厳しい状況が予想されます。

しかしいたずらにあせらず、まずは早期に自分の興味や適性を見つめ直し、狙いを定めて着実に準備をしていくことです。公務員(特に早い準備が肝要)や大学院進学(院卒を中心の職種が増えている)も視野に入れながら、大学側のサポートを活用し、業界や企業をしっかり研究しましょう。自らを知り、進路に対し強いモチベーションを維持できる人が就職活動の成功者となることが多いと感じています。

キャリアサポートプログラム

学生それぞれが充実した就職活動を行なえるように、1年次から支援が始まる独自の「キャリアサポートプログラム」。就職率100%の実現に向けた具体的な取り組みを紹介します。

1年次

就職ガイダンス

入学時から、大学での学びの意義・職業意識の醸成を促します。

適性検査①

自分自身の性格や興味を理解し、将来の目標設定などを自覚します。



2年次

就職ガイダンス

自分の適性・能力に応じた進路を考えることを促します。

適性検査②

これまでの学生生活を振り返り、改善すべき点や進路目標を考えます。

就職試験対策講座(2・3年生対象)

インターンシップ

進路の選択についてアドバイス

大学は、在学中に成人して社会に出ていく“かいこのまゆ”です。かいこが“まゆ”の中で大変身するように皆さんも美しい羽根を付けて飛び立つ準備をしましょう。勉強をして羽根を付けると次はどちらに向けて飛んでいくかが問題です。在学期間に自分だけの経験を積み、その時の自分の反応から自己発見をしてください。自分が何ができるかを知れば、社会に入ってどんなことをしたいかのモティベーションが高まり、蝶が目をもつように、自分の飛びたい方向が見えてきます。

さわだ やすじ
沢田 康次 学長



建設システム工学科

堅調な就職状況



なかやま まさとも
中山 正与
建設システム工学科 教授

業種によっては、厳しい就職状況が続いていますが、建設業については昨年に比較しても、それほど大きな落ち込みはなく、良好です。就職未定学生には、これまでの活動状況や、希望する業種、勤務地などを個別に調査し、指導を行なっているところです。

3年生に対しては、就職支援のための多くのプログラムがスタートしています。これらのイベントには積極的に参加して下さい。参考になることが多いはずです。企業の求人活動は年々早まっていますが、多くの学生はこの早さについていけない現状です。12月頃には求人票も届きますので、直ちに対応できるように希望する業種、勤務地について考えをまとめておくことが重要です。

デザイン工学科

常識試験、適性検査対策と志望動機を明確に



はらだ はじめ
原田 一
クリエイティブデザイン学科 教授

デザイン関係の就職先は多岐にわたるため、一業種のみの影響は受けにくいのですが、本年は製造業の落ち込みによる影響が大きく、苦戦しています。大手企業のデザイン部署やデザイン関連事務所への就職にはポートフォリオ(作品集)制作は必須ですが、一般的のデザイン関連企業では、常識試験、適性検査、面接試験が必須となります。

上記試験のための対策、OB、OGによる進路支援セミナーは毎年実施していますが、本年は特に志望動機を明確にすること、幅広い分野へチャレンジすることについて指導を行なっています。常識試験や適性検査がクリアできても、志望動機が曖昧であれば、不採用となります。十分な対策をして、就職活動に臨むことが大切です。

環境情報工学科

希望を持って柔軟に進路の選択を



いいねま こういち
飯沼 恒一
環境情報工学科 教授

昨年の米国発金融危機のために今年は情報・製造系企業を中心に求人を手控える動きがあります。そのため本学科には就職活動が思うようにいかない学生諸君もいます。しかし不況の波は過去に何度もあり、そのつど学生達は就職戦線を力強く乗り切っています。第2志望の中小企業に職を得て、自由な社風の下で才能を伸ばし、その会社を日本屈指の大企業に育て上げた友人が私にはいます。不況でも希望を失わず、少し長い目でみた柔軟な進路の選択が大事です。幸い、現在、設備・製造系に回復の兆しがあり、堅調の建設・環境土木系は従来通り募集をしています。教職員一同は学生諸君全員の希望実現を目指して今後とも力を合わせて支援してまいります。

3年次

就職ガイダンス

本格的な就職活動のスタートにあたり、具体的な就職活動の方法について指導します。

就職支援プログラム

就職活動を始める前に、必要なノウハウを解説、説明します。

適性検査③

職業についての理解を深め、自己PRや企業研究のきっかけづくりに役立てる検査を実施します。

夏季・春季休業を利用して行う民間就職試験(専門・常識・適性)、公務員試験対策の集中講座を開催します。

主に夏季休業中を利用し、企業での就業体験を通して自己の職業適性など、職業選択について考える機会とします。

4年次

個別就職指導

キャリアサポート課、学科の就職委員及び研修担当教員が連携し、個々に応じた就職相談・指導を実施します。

就職支援プログラム

就職活動中に、就職活動のフォローガイダンスを行ないます。



PROFILE

共通教育センター 教職課程部

小川 和久 教授

共通教育センター 教職課程部

片山 文雄 准教授



が 紹介



理論と実践の融合を目指して

小川先生は、大阪大学人間科学部をご卒業、同大学院人間科学研究科で応用心理学をご研究され、広島国際大学准教授をへて2008年4月より本学共通教育センター（教職課程部）教授を勤められています。専門は交通心理学。事故のない安全な社会づくりのための心理学の応用です。交通に関わるすべての人が、自分の運転の特徴や自分の性格に「気づく」機会をつくり、より安全に行動できるよう教育するプログラムを開発されています。

教育とは「楽しく明るく、自ら気づいていくこと」であると仰る小川先生。人当たりは柔らかくお話は楽しい。かつ鋭い分析力と実行力をお持ちで、とても頼りになる研究者・教育者です。

トピックス



第3回東北の建築を描く展

谷津 壽司(建築学科 学科長・教授)

10月30日(金)から11月4日(水)まで、仙台メディアテークで本学建築学科主催の「第3回東北の建築を描く展」が開催され、1,400人を超える多くの市民が訪れました。

東北の建築や町並みを描くという、テーマのおもしろさから、回を重ねるごとに応募数が増え、東北で開催される公募展として定着し、全国的にも広く知られつつあります。

モチーフ発見のおもしろさ、独自の視点が作品評価の特徴で、入賞した作品にある建築の新しい見方が、来場者の琴線にも触れ共感を呼んでいます。建築学科では、この展覧会を東北の建築を全国に紹介する文化事業として育てたいと思っています。



むつデジタル映像フェスティバルにて受賞

東北地方の学生クリエイターを対象とした、映像・アニメーション・CG作品のコンペティション「第1回むつデジタル映像フェスティバル」(青森県むつ市主催)で、本学学生および卒業生が下記の各賞を受賞しました。

むつ市長賞

「手紙」
おおつか しげた きんの しんご もんが たくや さとう みのる
大塚 将太・金野 真悟・門間 拓也・佐藤 実
(工学部デザイン工学科 4年)

審査員長賞

「BIRD BARON'S STORY」
はざかわ ゆき
萩川 由貴
(工学部デザイン工学科 平成20年度卒業生)

近藤左千子賞

「サークルトゥ サークル」
よこやま まなぶ ちば あやか いのまた りさ
編集担当:横山 学・千葉 綾香・猪又 莉沙
(クリエイティブデザイン学科 2年生)

写真:大塚 将太(左)佐藤 実(右)

年度末の主な行事日程

1月 後期補講期間

- 25日(月)～29日(金)
後期試験期間

2月 合同企業説明会(3年生)

- (本学主催/参加企業約300社)
- 4日(木)～6日(土)
一般入試(A日程)

- 9日(火)・10日(水)
リーダーズキャンプ

- 12日(金)
後期試験成績発表
追・再試験時間割発表

- 19日(金)～24日(水)
後期追・再試験期間

3月 公務員・民間就職試験対策講座(2～3年生)

- 2日(火)
大学院博士(前期)課程(2期)
博士(後期)課程入試

- 5日(金)
一般入試(B日程)及び社会人特別・
外国人留学生特別入学試験(2期)

- 11日(木)
卒業者発表

- 19日(金)
学位記授与式

- 26日(金)
進級者発表

キャンパス 短信

11/6(金)

八木山、長町の両キャンパスで同時刻に、全学的な防災訓練を行いました。宮城県沖地震発生という想定で、学生、教職員など、学内にいる全員が参加しました。

11/10(火)

八木山キャンパス10号館tohtechFORUMで教職員対象のAED講習会を開催しました。30名の教職員が参加し、心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)使用の実技講習を行ないました。

11/27(金)

八木山キャンパス1号館131教室で、本学経営コミュニケーション学科主催「デキるビジネスパーソンを育てる-経営コミュニケーション学の課題と展望-」と題したシンポジウムを開催しました。